

「親子で行く平和行動　IN　広島」に参加して

J P労組南予支部　清水卓司
英子・凪沙

2016年8月5日～6日『親子で行く平和行動　IN　広島』に親子で参加させていただき、愛媛の各所に住む親子のみなさんと共に広島へ行く事になりました。

8月5日は全国から2000人以上の方が原爆ドーム周辺に集まり、広島市民のボランティアの皆さんから原爆の歴史を伝えて頂きました。

正直な所、戦争の悲惨さや、原爆の恐ろしさなど、ニュースで見たり、聞いたりが現状でした。

当時は若い男性はみんな戦地へ行き、学生たちは労働に駆り出され、小学校の高学年の子供たちは疎開していたので、残っていたのは女の方ばかり。市内電車は女性が運転しているそうです。小学校には女の先生と低学年の子供たちがいたそうです。

そして、8月6日の8時15分、一瞬にして14万人の尊い命がなくなりました。

爆心地から1300メートル離れたところで被爆したアオギリ。翌年には新芽が生えて人々を勇気づけたそうです。



『原爆ドーム』とは、市民のあいだで誰と言う事なく、自然に言い出されたものですが、由来は、頂上の円蓋の死骸が傘状になっているところに基づいているそうです。

このドームは、核兵器の恐怖を示す『生き証人』であると言えるでしょう。

1921年1月広島県立商品陳列所として建設されましたが、1945年8月6日当日この館で働いていた約120人は、全員亡くなられたそうです。爆心点のほとんど直下にあったため、倒壊はまぬがれましたが、大破全焼し、本屋の中心部のみ死骸と化したそうです。

原爆投下から71年。現在、被爆した方たちの平均年齢は80歳を超えました。

集会では80歳以上の自体験を語る方がお話しされておりましたが、これからはどのようにして伝承をしていくかが課題です。広島の高校生の、歴史を伝えていく取り組みや姿勢が本当に素晴らしいかったです。

本年5月、オバマ大統領が、現職のアメリカ大統領としては初めて、人類最初の原爆被爆地、ここ広島を訪問した。核兵器のない世界を目指すことを強調してきたオバマ大統領がこの地に足を踏み入れました。 原爆被害の実相生に触れる事で、核兵器廃絶に向けて真摯に行動していかなければならぬと思います。



今回このようなイベントに参加し貴重な体験が出来たこと、また、お世話になりました連合愛媛の皆様ありがとうございました。

今後、この惨劇を風化させないよう、次世代にも引継・継承して行きたいと思います。